

令和3年度 東広島市工事技術調査報告書

令和4年2月15日

協同組合 総合技術士連合
技術士（建設部門） 高幣 喜文

調査日：令和4年1月18日・27日

調査場所：市役所及び当該工事現場

※質疑応答はオンライン形式（Web会議）による。

＜監査執行者＞

東広島市代表監査委員 水戸 晃
東広島市監査委員 重河 格
東広島市監査委員 奥谷 求

＜調査立会者＞

東広島市監査委員事務局職員

＜調査対象工事＞

令和3年度 公立放課後児童クラブ整備事業
河内いきいきこどもクラブ新築工事

＜工事説明者＞

東広島市都市部営繕課職員

1 工事概要

- 1) 工事場所：東広島市河内町中河内
- 2) 委託設計業者：株式会社 車田建築設計事務所
- 3) 工事請負業者：株式会社 てらお建設
- 4) 工事監理者：有限会社 元廣建築設計事務所
- 5) 工事請負金額：¥51,837,500-（設計額 ¥57,159,300-）
- 6) 落札率：90.69%
- 7) 工期：令和3年6月18日～令和4年2月28日
- 8) 工事概要：河内いきいきこどもクラブ新築工事に係る建築・電気設備・機械設備工事一式

- ① 敷地面積：907.19㎡
- ② 建築面積：140.03㎡
- ③ 延床面積：119.78㎡
- ④ 用途：児童福祉施設等（いきいきこどもクラブ）
- ⑤ 構造：RC造
- ⑥ 階数：平屋建
- ⑦ 最高高さ：4.529m
- ⑧ 仕上げ等：（外壁）コンクリート打放し（B種） 複層塗材E
（屋根）コンクリート直均しの上アスファルト防水

9) 工事進捗状況

令和3年12月31日現在

進捗率 60.0%

近隣調整に時間を要したことにより工事休止したことで、当初計画より遅れている。

今後、工期末を令和4年4月28日に延長する予定。

I 所見

1 総括的所見

調査に際しては、事前に調査計画書を作成し、調査当日までに計画書に示した質問事項に対して担当部署から（第1回目）回答を頂いた。

本年度の調査は新型コロナ対応でオンライン形式による調査に変更された。オンライン形式の調査をスムーズに進めるため、第1回目の回答に対する疑問点や確認事項を取り纏めて第2回目の質問を行った。調査実施当日は、第2回目の回答並びにPDFで送付された説明資料に基づき、質疑応答と資料確認を行った。

工事関係書類は必要にして十分であり、かつ良く整理されているものと想定された。当工事の計画、事前調査、設計、積算・契約、施工計画・管理、施工の各段階における技術的事項の実施態様について吟味した。その結果は、総括的には良好であると判断した。

各調査段階の調査結果並びに改善すべき事項を取り纏めて以下に示す。今後の業務改善の参考として頂ければ幸いである。

尚、調査計画書に示した2回の質問事項に対する回答をⅡに示す。朱書は第1回目回答、緑色は第1回目の回答に対する2回目の質疑事項である。第2回目の質問に対する回答は青色で示して頂いた。これらの質問と回答内容は、オンライン会議のための事前調査段階の質疑応答状況を示す具体的な資料であるため、調査報告書の一部として添付する。

2 各段階の調査結果

1) 計画について

本事業は河内小学校の新設に伴い計画された事業であるが、敷地が土砂災害警戒区域内にあるため、安全・安心のためRC造の丈夫な建物で計画されていた。共働き夫婦の増加により、いきいきこどもクラブのニーズは増しているが、市の基本方針としては空き教室の利用で賄うとのことであった。今後、足りない地域については民間施設の利用等も検討しているとのことであった。民に任せられるところは、できるだけ民間に業務を移行していくのが今後の公共サービスの基本的方向性であると考え。具体的な構想は今後の課題とのことであったが、民への委託のメリットとデメリットを整理し、早急にこの種の公共サービスの在り方を検討され、住民の理解が得られる説明資料を用意されたい。

河内小学校の計画時点で、いきいきこどもクラブの計画が組み込まれていれば、より効果的な事業計画となったのではないかと想定された。別途敷地

で新築せざるを得なかった理由を確認したところ、後日下記のような回答が提供された。

本市では、複式学級の解消を図ることを目的に学校統合を進めており、近隣の小学校2校を統合し、令和3年4月に開校した東広島市立福富小学校及び小学校3校を統合し、令和4年3月開校予定の東広島市立志和小学校（いずれも中学校敷地内及び隣接地に移転）については、小学校校舎内にいきいきこどもクラブを設置した。

河内小学校についても当時の予算所管課（こども未来部保育課）からの要望もあり、中学校東隣に増築する小学校校舎内への設置を検討したが、新小学校は、学校敷地の制約や今後の児童数の推計等の理由から、中学校校舎を最大限活用しつつ、不足する必要最小限の面積のみ増築で賄うという形を採ったため、校舎内にいきいきこどもクラブ用の教室を確保する余地がなく、やむを得ず敷地内に別の建物を新築することとした。なお、いきいきこどもクラブは夏休み等の長期休暇や土曜日にも利用する児童がいるため、校舎と独立した出入口を設ける必要があることから、1階への設置が検討されていた。

※いきいきこどもクラブの予算所管課は、令和2年度まではこども未来部保育課、令和3年度以降は生涯学習部青少年育成課。

2) 事前調査について

深さ9mのボーリング調査と5箇所のスウェーデン式サウンディング試験によって、地盤の調査がなされていた。小規模な建物であるが、土石流対応の設計が必要な敷地となっていることから、設計施工の予備調査としては妥当である。深度が2m以深にN値50以上の砂礫質の支持層が存在しており、基礎はこの地層に定着する計画となっていた。

3) 設計について

いきいきこどもクラブの設計は、児童福祉法の規定に基づく「放課後児童健全育成事業の設備及び運営に関する基準」等により安全と安心を基本方針として設計していた。

本建物の敷地は、土砂災害警戒区域（イエローゾーン）の指定を受けているため、広島県が実施した基礎調査資料に基づき、建物に到達すると予想される土石流の高さと流速を推定し、土石流による流体力を算定していた。推定した土石流の高さは1.33m、流体力は20.45kN/m²で、作用応力は28.0kN/mとして、建物の構造設計を行っていた。部材の検討は、「土砂災害特別警戒

区域内における居室を有する建築物の外壁等の構造方法並びに当該構造方法を用いる外壁等と同等以上の耐力を有する門又は塀の構造方法を定める件(H13国交告383号)第3項第二号の規定による方法で検討しており、土石流圧が作用する方向の北側壁面が頑丈な壁厚(EW20)と十分な配筋となるように設計されていた。土石流が想定される北側の壁の開口部は高さが1.5m以上に設置しており、土砂災害警戒区域内の公共施設として、安全確保に十分配慮した設計がなされているものと判断した。また、敷地に高低差があるため、推定した土石流の流速より離隔距離を検討し、建物配置計画に反映しているとのことであった。

尚、発達障害児対応も考慮して、コーナーガード、防滑性床、強化ガラス等の安心設計がなされていた。平面計画としては遊びと静養の場を分けており、1.65㎡/人のほぼ基準どおりの設計がなされているものと判断した。

4) 積算・契約について

積算は設計事務所の算出した内訳書に拠っていたが、積算数量の妥当性は課員が複数人でチェックしているとのことであった。

設計単価の妥当性は過去の実績(平成29年度事業は34.4万円/㎡、平成30年度事業は30.1万円/㎡、平成31年度事業は43.4万円/㎡:いずれもS造プレハブ)等も参考にされていたが、設計単価は47.7万円/㎡(小屋部分も含めた場合は40.8万円/㎡)と多少割高となっていた。土石流対応のRC造建物であり、割高とならざるを得ないと考えられる。

契約は6社の条件付一般競争入札で最低額の業者を選定していた。契約書類の整備については監査委員事務局で調査していただいたが、特に問題は無いとのことであった。

5) 施行計画・管理について

監督官の重視する管理の優先順位は安全、品質、工期とのことであった。安全については第三者(児童)の安全を重視しており、特に登下校の時間帯の車輛制限や仮囲い及び学校との調整に努力されていた。

品質については、コンクリート躯体の品質を重視しており、特に鉄筋工事の精度確保に管理の重点を置いているとのことであった。配筋量の多い躯体工事であることを考慮しており、妥当な品質管理項目である。

また、塗装工事と内装工事の品質も重視しているとのことであったが、各工事の管理のポイントを見定める必要がある。各メーカーの施工マニュアル類を取り寄せ、具体的な工程管理のポイントを抑えられる工夫をされたい。

6) 施工について

監理は外部委託されていたが、設計者と異なる業者に発注されていた。設計図面に疑義がある場合の対応等、監督者としては調整手間がかかる発注形態であるが、東広島市では設計者と監理者を競争原理で決めていく方向であるとのことであった。当事業では調整が必要な局面は少なかったようであるが、このような小規模な建物であれば問題は少ないと考える。

今後、設計と監理を分離発注する方針で事業を推進するのであれば、設計者の意図を明確に施工者に伝達・指示できる優れた監理者の選定が必須と考える。また、設計図書は設計の意図が明確で、細部の収まりにも十分配慮され、確認・調整・修正や補足設計が少ない充実した内容となっていることが重要である。発注者は、設計図書の充実状況を判断できる担当者個々人のスキルの向上と分離発注対応のしくみを組織として整備充実させることが必要と考える。

土工事の様子、支持層確認状況、コンクリート打ち上がり面等の写真で見える限りでは、比較的良好な施工がなされているものと判断された。

また、安全対策も仮囲いや看板表示等も適切と判断されており、今のところ妥当な施工管理がなされているものと判断される。

今後の安全施工に注力されたい。

Ⅱ 質問に対する回答

1 着工前書類の調査

- (1) 計画について（事業の全体構想、必要性、予算措置、費用対効果・費用便益効果（B／C）、重視する管理項目等下記の項目について簡潔に記入してください）

①放課後児童クラブ整備事業全体の現状・課題と今後の整備構想

本市は現在59の公設放課後児童クラブを運営しており、そのうち単独施設として整備したものが40施設で、残りの19施設は小学校の空き教室等を利用している。

施設の老朽化や管理運営費等の問題から、今後は民設民営の放課後児童クラブへの移行を拡充し、公設公営は極力整備しない方針としているが、民間事業者の参入が見込めない地域（市中心部以外）については、当面市が施設の整備及び運営を行う。

なお、今後の整備構想としては、学校改修等と合わせてクラブの整備を検討していく予定である。

（第2回目質問）

①クラブの老朽化や管理運営費の内容を具体的に示してください。

単独施設として運営するクラブの中には、築20年を迎えるプレハブを利用しているものもあり、施設の老朽化による建て替えを検討する必要性が生じている。

また、受入れ児童数の増加により、施設の狭隘化の問題が生じるとともに、支援員の報酬などの人件費や備品購入費、光熱水費といった管理運営費も増加している。

②民間参入が見込めないと想定している地域を示してください。

民間事業者の参入による施設の確保が見込めるのは主に市中心部であり、それ以外の地域では難しいと考えている。

③上記事業の中長期的整備計画があれば示してください。

施設が不足する地域について想定はしているが、市中心部以外の地域でも民間事業者が参入できる方法はないか、様々な方向性や可能性を模索している段階にあり、現時点で中長期的な整備計画を策定することは困難である。

- ②全体整備構想の中での本事業の位置付けと課題等（令和４年開校予定の小学生児童を対象としているが、他校の整備状況及び本事業推進上の課題等）

本事業は、河内小学校と河内西小学校の統合移転に伴い新設する河内小学校の令和４年４月開校に合わせ、小学校の敷地内に放課後児童クラブを新設するものである。

放課後児童クラブとは、保護者の就労等により放課後家庭で保護者と過ごすことができない児童に対し、適切な遊び及び生活の場を与えることを目的に設置されるもので、公設公営方式では、本市の３２小学校の全てに１～４箇所、計５９施設が設置されている。

- ③事業の予算構成（補助内訳や比率）及び費用対効果（イニシャルコスト及びランニングコストも考慮した効果）

予算編成（国、県共に補助対象経費の１／３）

歳 入		(単位:円)				
款	項	目	節	細節	金額	説明
16	2	2	2	43		
国庫支出金	国庫補助金	民生費 国庫補助金	児童福祉費 国庫補助金	子ども・子育て 支援整備交付金	13,500,000	河内いきいきこどもクラブ 新築工事
	計				13,500,000	
歳 入		(単位:円)				
款	項	目	節	細節	金額	説明
17	2	2	2	27		
県支出金	県補助金	民生費 県補助金	児童福祉費 県補助金	子ども・子育て 支援整備県補助金	13,500,000	河内いきいきこどもクラブ 新築工事
	計				13,500,000	
歳 出		(単位:円)				
款	項	目	節		金額	説明
3	2	3	12 委託料		2,600,000	河内(監理)
民生費	児童福祉費	児童福祉施設費	14 工事請負費		58,000,000	河内(建築等)
	計				60,600,000	

費用対効果

放課後に児童が安心安全に生活できる場及び学習する場を保護者の就労支援の一環として提供することを目的としている。

(第2回目質問)

- ①本事業で計画している放課後施設の運営のための概算費用（ランニングコスト）と内訳を示してください。

電気使用料	約 185,000 円／年
水道使用料	約 20,000 円／年
下水道使用料	約 13,000 円／年
備品購入費	約 150,000 円／年
修繕費	約 150,000 円／年
人件費	約 4,000,000 円／年 ※支援員2人の配置を想定

- ②民間施設に移管する際の課題や費用対効果の予想、予算的措置等を検討していれば示してください。

民間にシフトする方法として、公設民営、民設民営等が考えられるが、現時点で費用対効果の予想や予算的措置等については検討していない。

考えられる課題としては、引き続き公営施設の利用を希望される保護者への対応方法や、施設が学校敷地内にある場合の管理方法等について検討する必要があるのではないかと。

- ④予算計上部署（施設の主管部署）として事業推進上重視する管理項目（品質・コスト・工期・安全・環境等で最も重視している管理項目と具体的目標）

予算計上部署：生涯学習部 青少年育成課

事業推進上重視する管理項目：

- ①安全・品質（施設を利用する児童等が、安全、安心、快適に過ごせる環境を整える必要があるため）。
- ②工期（令和4年4月1日の供用開始を目標としていたが、諸事情により次年度へ繰越し、令和4年5月1日の供用開始を目指している。）
- ③コスト

(第2回目質問)

- ①運営上安全性が問題となった事例があれば示してください。

要配慮児童の中には、突然クラブ室から飛び出していく児童も存在するので、状況に応じて鍵を追加するなどの対策を行った事例がある。

- ②設計や運営に際して安全を求める具体的な内容を示してください。
利用する児童の安全確保。
支援員の目が行き届く配置であり、避難経路が2個所以上配備されていること。
- ③供用が開校より1ヶ月間遅れるようであるが、その間の対応策を示してください。
河内小学校のコミュニティールームを借用し暫定運営を行う。
- ⑤事業計画に際して議会等で指摘・審議された重要事項
特になし。

(2) 事前調査(設計や施工に際して事前に調査や検討した結果について、実施した項目に○をし、その概要をご記入ください)

- ① 立地条件：(都市計画上の敷地条件や周辺の立地環境：土砂災害警戒区域とのことですが、どのような災害が想定されますか?)
都市計画区域内(非線引き)第一種住居地域
土砂災害が発生した際に土石流の到達が予想される。
- ② 土質調査：(基礎設計や工事中の留意点等明示してください)
標準貫入試験結果に基づき、設計G L - 2.0 mの位置の砂礫層を支持層とし、直接基礎で設計を行った。
- ③ 環境影響：(建物建設による環境影響項目や対策等
周辺には既設建物はなく、また平屋建てでもあり特に影響はないと判断した。
- ④ 事前協議：(ユーザー等の関係部署、周辺住民、工事に際して事前協議を必要とする部署や他工事との調整状況)
施設所管課の青少年育成課と設計方針について設計段階で詳細な協議を行っている。また、隣接する小中一貫校とも、教育総務課を通し、工事中の安全性の確保等の事前協議を行った。
併せて、当該敷地は道路拡張工事が予定されていることから、道路工事を行う道路建設課と教育総務課を通して調整を行った。

(第2回目質問)

- ①土石流の到達範囲を図面で示してください。

別紙土砂災害警戒区域図のとおり。

- ②布基礎かべた基礎か直接基礎の形式・形状（断面図等）を示してください。

別紙基礎リストのとおり。

- ③主要な設計方針を示してください。

現地状況を考慮した安全対策が確保できる計画とすること。

（３） 設計について

- ①コンセプト（意匠コンセプト、新設小学校との関係等）

現地状況を考慮し、安全に配慮した建築物とすること。

新設小学校と外壁色を統一し、新設小学校とのつながりを意識している。

- ②配置や平面計画（３案の評価者は？既存いきいきこどもクラブ運営上の課題と本施設設計上の配慮内容、安全・安心設計に配慮した内容等）

評価者は営繕課及び青少年育成課

想定される土石流の土圧を考慮し、それらに耐えうる壁厚とした。

- ③設計根拠または準拠指針（いきいきこどもクラブの文科省基準や設計指針概要と当工事への反映状況）

- ・ 建築基準法、消防法
- ・ 建築工事設計図書作成基準（国土交通大臣官房官庁営繕部監修最新版）
- ・ 建築設計基準（国土交通大臣官房官庁営繕部監修最新版）
- ・ 建築構造設計基準（国土交通大臣官房官庁営繕部監修最新版）
- ・ 公共建築工事標準仕様書（建築工事編）（国土交通大臣官房官庁営繕部監修最新版）
- ・ 建築工事標準詳細図（国土交通大臣官房官庁営繕部監修最新版）
- ・ 排水設計基準（国土交通大臣官房官庁営繕部監修最新版）
- ・ 児童福祉法（昭和二十二年法律第百六十四号）第三十四条の八の二第二項の規定に基づき定める放課後児童健全育成事業の設備及び運営に関する基準

④構造計算書（特に重視して検討した内容及び基礎構造は？）

基礎は直接基礎とし、上部躯体はラーメン構造とした。
設計はルート1で行い、土石流の土圧が壁に作用した際の耐力の検討を行った。

⑤設計内訳書（コスト縮減工種等のコスト削減項目）

特になし

⑥特記仕様または施工条件明示（工事発注上の注意事項や基本方針、特に設計で重視する管理項目）

特約事項に明示。

「17. 施工者も含め、車両の出入りは7:30～8:00（登校時）及び16:00～18:00のうち30分程度（季節・曜日により変動）以外の時間帯とすること。時間帯に関しては、事前に監督職員及び隣接施設（河内中学校）と協議を行うこと。」

⑦設計変更の有無（内容及び手続状況）

有 ・工事の一時中止、工期の延長 他
手続については、工事打合せ簿にて協議済。

（第2回目質問）

①土石流荷重はどのように見込みましたか？

広島県が作成している土砂災害の基礎調査報告書及び「建築基準法施行令第80条の3の技術基準等の運用に係る広島県版取扱」に基づき、建物に到達すると予想される土石流の流体力及び高さを推定し、それらが壁に等分布荷重として作用すると見込んだ。

②その他の安全・安心設計で配慮した内容があれば示してください。

- ・敷地に高低差があるため、推定した土石流の流速より必要な離隔距離を検討し、建物配置計画に採用した。
- ・土石流が作用する箇所の建具の取り付け高さを、想定される土石流の高さより高くした。
- ・建物内部の各部には樹脂製コーナーガードを使用した。
- ・便所及び湯沸室の床シートを防滑性とした。
- ・児童クラブ室のガラスは学校用強化ガラスを採用した。

③文科省基準のいきいきこどもクラブの具体的な内容を解説してください。

児童福祉法（昭和二十二年法律第百六十四号）第三十四条の八の二第二項の規定に基づく放課後児童健全育成事業の設備及び運営に関する基準より

- ・（第五条 5）放課後児童健全育成事業を行う場所（以下「放課後児童健全育成事業所」という。）の構造設備は、採光、換気等利用者の保健衛生及び利用者に対する危害防止に十分な考慮を払って設けられなければならない。
- ・（第九条）放課後児童健全育成事業所には、遊び及び生活の場としての機能並びに静養するための機能を備えた区画（以下この条において「専用区画」という。）を設けるほか、支援の提供に必要な設備及び備品等を備えなければならない。
- ・ 2 専用区画の面積は、児童一人につきおおむね一・六五平方メートル以上でなければならない。

④工事中止の理由（近隣調整の具体的調整内容）と工期延長による予算への影響・対策等の具体的内容を示してください。

近隣住民から、別の工事での給水接続補償（枯れ井戸対策）を求められていたが、その保障に係る給水接続工事に遅れが生じた。そのため、給水接続工事の目途が立つまでは、当該工事を中止するよう求められたため応じたもの。

予算的には、変更契約も含め当初予算内で収めることが出来たが、繰越処理を行う必要が生じた。

（４） 積算について

①積算とその根拠（数量の拾い出し方、その数量の妥当性のチェック方法等）

数量の拾い出し方は、建築数量積算基準により拾い出しを行う。
また、設計事務所からの数量調書や見積書を成果品提出時に確認する。

②単価とその根拠（県や市の単価基準、建設物価、コスト情報、内訳書の分析等々の市場価格の把握努力状況を記入してください）

単価の採用については、広島県作成の営繕工事積算資料を用い、これに記載されていないものは、刊行物（建設物価、コスト情報等）、またこれらに記載されていないものは3社の見積書を徴収し、その中で一番安価な業者の見積価格に市場動向を勘案した掛率で掛けたものを設計単価としている。

- ③設計価格（価格の妥当性の検討とその評価方法、ユニットプライス方式や合見積り収集等によるチェックの仕方を記入してください）
基本的には営繕工事積算資料・刊行物等による単価設定を行っているため、市として妥当であると判断している。また、ユニットプライス方式は現在のところ採用していない。

（第2回目質問）

- ①積算数量の妥当性を確認する具体的な確認方法を示してください。

数量：拾い図→集計表→内訳書に上がる各段階で、拾い漏れ、集計漏れなどのチェックを複数人で行っている。

単価：採用単価の根拠のチェックを複数人で行っている。

- ②設計単価は約 47.7 万円/㎡となっていますが、同種工事の今迄の単価実績を示してください。また、開設する小学校の単価を示してください。

設計単価 47.7 万円/㎡を算出した延床面積 119.78 ㎡には、玄関前の下屋部分が含まれていません。

そのため、過去の事例と比較検討を行う場合、下屋部分を含めた設計単価を算出する必要があり、設計単価は

57,159,300 円 ÷ 140.03 ㎡ ≒ 40.8 万円/㎡となります。

○H31 東西条第2・第3いきいきこどもクラブ 43.4 万円/㎡
(S造プレハブ 264 ㎡)

○H30 御園字第2いきいきこどもクラブ 30.1 万円/㎡
(S造プレハブ 135 ㎡)

○H29 龍王いきいきこどもクラブ 34.4 万円/㎡
(S造プレハブ 558 ㎡)

増築する小学校の工事費は、既存校舎の改築工事費も含まれているため算出ができません。

(5) 契約について

①入札の経緯（落札の経緯、現場説明や質疑応答記録、入札各社の内訳等）

契約書一式のとおり。

入札方法：条件付一般競争入札

落札までの経緯：

入札公告	R3. 5. 18
設計図書の閲覧	R3. 5. 18～R3. 5. 24
質問書提出期間	R3. 5. 18～R3. 5. 26
回答書閲覧期間	R3. 6. 1～R3. 6. 4
入札期間	R3. 6. 3～R3. 6. 4

②契約書類一式の整備状況（監査委員事務局で事前にチェックしておいてください。）

契約書等の関係書類一式はファイルに綴られており、整備状況、保管状況ともに良好である。

(第2回目質問)

①応札者数と各社の提示金額を示してください。

6 者（いずれも税抜金額）

(株) てらお建設	47, 125, 000 円
(株) カジカワ	47, 195, 000 円
平原建設 (株)	49, 480, 000 円
(株) 大宝組	50, 600, 000 円
(株) 上垣組	50, 900, 000 円
(株) 荒谷工務店	51, 800, 000 円

②設計図書に対する質問と回答の概要を例示してください。

質問はありませんでした。

③貴市工事の過去3年程度の落札率の傾向を示してください。

令和元年度 93. 0%

令和2年度 96. 0%

令和3年度 93. 2%

※一般競争入札案件の工事における平均落札率を示したもの。

※令和3年度は令和4年1月25日時点で開札日が到来した案件を対象としている。

※低入札価格調査制度対象工事を除いて算出した。

2 着工後書類の調査

(1) 諸届と保険類（整備されている書類に○をしてください）

- ①前払金の保証証書
- ②公共工事履行保証証券
- ③賠償責任保険への加入（ ／人、1 事故対人 円、対物 円）
- ④建設工事保険
- ⑤火災保険
- ⑥建設業退職金共済掛金収納書
- ⑦下請負通知書
- ⑧着工届
- ⑨完成届
- ⑩現場代理人届
- ⑪承諾書
- ⑫監理技術者（氏名と資格は何か）
- ⑬監理及び管理工程表
- ⑭その他（整備されているものがあれば記入してください）

(2) 監督及び監理関係書類（揃っている書類に○をしてください）

- ①監督員通知書
- ②監理関係書類
- ③監理（監督）分掌区分表
- ④監督者の重点管理項目（品質・コスト・工期・安全・環境等の優先順位とその具体的内容について記してください）
安全＞品質・工期とし、工場現場や供用後の利用者の安全を第一としています。

（第2回目質問）

- ①設計・施工管理（監理者）・役所の監督官の具体的な業務分掌内容を示してください。
設計：設計内容の疑義事項への回答
監督員、監理者：別途添付のとおり
- ②安全を最優先としていますが、監督者としての具体的な安全活動を例示してください。工事現場と供用後の利用者の安全に分けて示してください。

隣接する中学校の登下校時間帯は、工事車両及び工事関係者の車両が現場内に進入しないように最大限配慮した。

- ③品質で重視する工事（優先順位3番目まで）と管理項目や基準を示してください。

全て公共工事標準仕様書による

コンクリート工事

塗装工事

内装工事

- (3) 施工計画書（管理方針、施工体制、工程、安全対策、環境対策、品質管理項目、品質管理指標と管理基準等々の状況を記入してください。また、施工計画書が整備されている工事に○をしてください）

- ① 総合施工計画（監督方針の反映状況、仮設計画の妥当性等）

役所の監理・監督方針

基本要求品質を確保する。

隣接敷地の中学校を運営しながらの工事となるため、安全に最大限配慮する。

仮設計画の妥当性 妥当

その他 全体工程表、安全管理計画 妥当

- ② 基礎工事

基本的には国土交通省大臣官房営繕部監修「公共建築工事標準仕様書（建築工事編）」等に基づき、施行計画を行っている。なお、根切底の状態については監理者の確認を受ける。

- ③ コンクリート工事（躯体施工計画書による。）

基本的には国土交通省大臣官房営繕部監修「公共建築工事標準仕様書（建築工事編）」等に基づき、施行計画を行っている。なお、コンクリート打設時には、監理者の立会のもとフレッシュコンクリート試験を行い打設する。

- ④ 鉄筋工事（躯体施工計画書による。）

基本的には国土交通省大臣官房営繕部監修「公共建築工事標準仕様書（建築工事編）」等に基づき、施行計画を行っている。なお、配筋完了後コンクリート打設前に監理者の配筋検査を受ける。

⑤ 型枠工事（躯体施工計画書による。）

基本的には国土交通省大臣官房営繕部監修「公共建築工事標準仕様書（建築工事編）」等に基づき、施行計画を行っている。なお監理者が、配筋検査時に型枠検査も同時に行っている。

⑥ 仕上げ工事

⑦ その他（施工計画書が揃っているものを記入してください）

キャスボル施工計画書

スリーブ・インサート工事施工要領書

給排水設備施工要領書

鉄筋UT検査要領書

電気工事施工計画書

（第2回目質問）

①総合施工計画の中で、監督官が優先管理するとした3工事の品質計画書があれば例示してください。

品質計画書はありませんが、施工計画書の中で品質管理を謳っています。

②鉄筋工事の精度確認方法を示してください。

監理者の立会いの下で配筋検査を行った。

③その他、重要品質の確認結果を例示してください。

コンクリート配合計画書、コンクリート打設前の立会により公共工事標準仕様書に定める品質が確保できていることを確認した。

（4）使用材料届け並びに承認願（承認願・承諾書のリスト）

コンクリート

鉄筋

碎石

梁貫通補強

防湿シート

（5）施工管理資料の整備状況（整備されている資料に○をしてください）

①工事写真（竣工後目視確認できない品質の証拠写真：配筋状況や鉄

筋の被り厚さ以外の証拠写真類は？)

随時整備中

②日報（月報、週報等）

月間工程表、工事履行報告書

③出来形検査結果（検査した工事リストを記入してください）

④品質の各種試験結果（コンクリート、鉄筋ミルシート、鉄筋圧接、その他整備されているものをリストアップしてください）

コンクリート強度試験結果

鉄筋ミルシート

ガス圧接接手超音波探傷検査試験報告書

キャスボル試験報告書

⑤産業廃棄物処分計画（収集方法、運搬経路、再利用計画、処分地の調査、マニフェスト類の整備状況等を記入してください）

産業廃棄物処分計画書提出済

⑥残土処分関係書類

整理中

⑦その他（施工管理資料で整備されているものをリストアップしてください）

（第2回目質問）

①品質優先3工事の品質が確保されていることを例示してください。

躯体工事：コンクリート配合計画書、コンクリート打設時の立会により公共工事標準仕様書に定める品質が確保できていることを確認した。

塗装工事：未施工であるが、施工計画書を確認している。

内装工事：今後確認を予定している。

②キャスボル採用理由と検査結果の概要を示してください。

建物規模が比較的小規模であり、直接基礎を採用していることから、調査費用等を考慮した結果、キャスボル試験を採用している。

測点1 許容支持力 267.7KN/m²

測点2 許容支持力 240.2KN/m²

(6) 施工報告書の充実度 (整備されている報告書をリストアップしてください)

特になし

(7) 安全衛生管理

① 計画書及び組織図 (監督者として重視・指示した安全活動内容)
有 ・ 工事安全計画書

② 労働基準監督署への届出及び報告 (整備されている書類リスト)
無 (該当なし。)

③ 安全管理活動記録
有 ・ 安全ミーティング
・ K Y 活動報告書
・ 新規入場時教育実施報告書
・ 作業日報・安全記録

④ その他 (整備されている資料を記入してください)

(第2回目質問)

① 安全計画書の概要と結果を示してください。
労働安全衛生法で定められた規則等を遵守して作業を行うと共に、
特に重要と思われる事項に関して記載を行っている。
安全計画書に基づく施工が行われている。

(8) 監督員記録の整備状況 (揃っている資料に○をしてください)

① 指示・報告・承認のルール
書面により行う。記録類は工事打合せ簿により整備

② 指示書事例
設計変更 他

③ 承認書事例
使用材料、施行計画書、施工図 (工事打合せ簿により処理する。)

④ 試験検査事項
各工種別施工計画書による。

⑤ その他 (監督員報告書類)

(第2回目質問)

①工事の一時停止に伴う予算的な対応状況を説明してください。

令和3年12月議会において、事業費の繰越について議決を得た。

②設計変更内容と対応状況を説明してください。

仮設計画の変更

③中間検査等を実施していれば、その結果を示してください。

中間検査実施済み 合格

(9) その他（アスベスト対策やシックハウス関係の検査内容等特に管理で注意した内容があれば記入してください）

特になし。

3 施工状況調査

(1) 工事施工状況

①施工状態（整理整頓、品質管理）

現場内は整理整頓されており、搬入した材料は保管場所を定め、品質管理されている。

②出来栄え（躯体、仕上げ、外構）

仕上げ工事、外構工事は未着手であるが、躯体工事については確認済。

③標識掲示（施工体制、管理者は規則どおり掲示されているか）

- ・ 工事標示板
- ・ 施工体系図
- ・ 労災成立票
- ・ 建退共
- ・ 建築確認板

(第2回目質問)

①着工から現時点までの進行状況を示す写真（定点観測事例等）を例示してください。

定点観測写真はありません。

(2) 安全管理（具体的に活動状況を記入してください）

①第三者安全

工事現場の出入りにあたり、工事車両は徐行運転
交通誘導警備員による誘導
通学時間帯に工事車両の出入りが無いように調整

②表示

③教育

新規入場時教育実施報告書作成

④装具装着

安全点検記録、作業日報、安全記録作成

⑤その他（KYKやヒヤリハット活動等の安全活動状況を記入して下さい）

安全ミーティング、KY活動報告書作成

(第2回目質問)

①安全管理状況を示す写真を例示してください。

別紙工事写真のとおり。

(3) 工程管理 (現在の進捗率、遅れている場合はその理由と対策を記入してください)

12月末で60%

地元調整に時間を要したため、1ヶ月の休工期間があった。

(4) その他

竣工後のスムーズな運営への対応 (各種メンテナンスマニュアル類、緊急対応、協力体制等々の資料の整備予定を記入してください)

上記内容については、引渡し書類として、各種取扱説明書・保証書等を作成する予定。

(第2回目質問)

①施設管理者に引き継ぐ安全維持マニュアル類があれば例示してください。

現在は用意していませんが、竣工時までには作成を検討します。